

令和2年度宇都宮市立上河内中学校学校評価書

1 教育目標（目指す生徒像含む）

人間尊重の理念を基調とし、豊かな情操を備え、社会の変化に向き合いながら、常に目標を持ち、自ら学ぶ意欲を持ち続け、他と協働して粘り強く物事に取り組む心身ともに健康な生徒を育成する。

【校是：よく学び よく鍛えよ】

☆ めざす生徒像

- ・学び鍛える生徒
- ・自他を尊ぶ生徒
- ・気力あふれる生徒

☆ めざす教師像

- ・愛と情熱にあふれる教師
- ・研ぎあう教師
- ・実践する教師

☆ めざす学校像

- ・楽しく学びあえる学校
- ・協に伸びる学校
- ・信頼される学校

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

- (1) 個に応じた教育を進めながら、生徒が生涯にわたって社会の変化に対応し、成長し続けることができるように、その基盤となる「知」・「徳」・「体」のバランスのとれた力の育成に努める。
- (2) 全教職員が使命感と意欲をもって学校経営に参画し、教育課程の具現化に取り組むことで生徒・保護者・地域の信頼や期待に応え、地域とともにある学校づくりに努める。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) ○「確かな学力」を育むことをめざして
 - ①学力調査等を活用した現状分析と改善策の検討並びに実践
 - ②習熟度別学習等による生徒の実状に即した指導・支援の推進
 - ③家庭学習の習慣化と充実に向けた指導の徹底
- (2) 「豊かな心」を育むことをめざして
 - ①道徳科を核とした心の教育の充実
 - ②体験活動や読書活動を通しての豊かな感性の育成
 - ③行事や係活動等を通しての自己有用感や自己肯定感の涵養
 - ④ボランティア活動や他と協働しながらの活動による「他者を思いやる心」の育成
- (3) 「健康で安全な生活を実現する力」を育むことをめざして
 - ①健康診断や新体力テスト等による現状把握と改善に向けた取組の推進
 - ②食育や保健指導の更なる充実と推進
 - ③進んで運動に取り組む環境づくりの推進
- (4) 「未来を生き抜く力」を養うことをめざして
 - ①社会の動きに対しての興味・関心の喚起及び情報提供の促進
 - ②地域の教育力活用と生徒の地域行事への積極的参加の推進
- (5) 「教職員の資質・能力」と「学校のチーム力」の向上をめざして
 - ①OJT・研修等を通しての教師の授業力向上に向けた取組の継続
 - ②情報共有の推進と共通理解・同歩調による指導の充実
 - ③「働き方改革」を意識した勤務時間管理の推進
 - ④業務適正化（効率化・簡略化・削減）の推進
- (6) ○小中一貫教育と地域学校園の取組の充実をめざして
 - ①前年度に地域学校園として作成した小中一貫カリキュラムの確実な実践
 - ②発達段階に応じた小中一貫による学業指導の充実

【上河内地域学校園教育ビジョン】

かしこく、たくましいゆずっ子の育成 ～基本を身に付け、人とのつながり、夢に向かって生きる子どもを育てよう～

4 教育課程編成の方針

- (1) 基本方針
教育基本法、学校教育法にのっとり、新学習指導要領に基づきながら、上河内地域のある種独特の地域性や学校の実態及び生徒の心身の発達段階や特性を考慮して編成を行う。
- (2) 留意点
 - ①学校の教育目標や「めざす生徒像」、各教科の目標・ねらいとの整合性を図る。
 - ②社会とのつながりを重視し、「社会に開かれた教育課程」の実現をめざす。
 - ③学習指導要領で示されている各教科等の内容の指導に支障のないように適切な授業時数を確保する。
 - ④「総合的な学習の時間」発表会（11月の最終土曜日を予定）に向けて、「総合的な学習の時間」の特色を踏まえた教科横断的な視点に立った追究活動の推進や発表をめざした学習を進める。
 - ⑤学校評価との関連付けを図り、PDCAサイクルを機能させたカリキュラムマネジメントを行う。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

(1) 学校運営 ①生徒一人一人を大切に、個に応じた指導・支援の推進 ②安全面も含め、「学ぶ場」としての学校の環境整備の推進 ③いじめの根絶に向けた取組の推進と不登校対策の充実 ④「地域とともにある学校」づくりをめざし、地域と連携・協働した取組の充実・推進 ⑤業務の適正化推進による教職員の負担軽減と超過勤務時間の縮減 (2) 学習指導 ①確かな学力を身に付けさせるための授業展開や学習活動の工夫 ②家庭学習の習慣化とその充実に向けた指導・支援の強化 ○③地域学校園としての学習ルール指導を中心とした学業指導の充実による「学びに向かう集団」づくりの推進 (3) 児童生徒指導 ○①基本的な生活習慣を身に付け、高い規範意識に基づき行動する生徒の育成 ②生徒指導部会や教育相談・特別支援教育部会を中心とした組織的な対応 ○③体験活動・読書活動、さらには道徳科の授業等を通しての「宮っ子心の教育」の推進 (4) 健康（体力・保健・食・安全） ①給食や食農体験等の充実による地域の特色を生かした食育の推進 ○②検診結果を踏まえた地域学校園として連携した歯科保健指導の充実 ○③地域学校園の小中一貫カリキュラムを踏まえた運動生活の習慣化	
---	--

6 令和2年度自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
目指す生徒の姿	A 1 生徒は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】全体アンケートの「生徒は、授業中、話をしっかりと聞いたり、発表したりするなど、進んで学習にとりくんでいる」 ⇒生徒肯定回答 80%	① 本時のめあてを分かりやすく具体的に提示し、見通しをもたせる授業を展開するとともに、めあてに対する振り返りをさせる。 ②○必要に応じて、授業の中で話し合い活動を取り入れるなど、主体的で対話的な学習が進められるような学習形態を工夫する。 ③○図書委員会と協力して家庭学習ノートの提出を徹底し、家庭学習の習慣化と内容の充実を図る。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 91.3%（昨年よりも3.2%↑）で、目標を11.3ポイント上回った。 ・疑問点を生徒同士で教え合う姿が多く見られた。 【次年度の方針】 ○「学習のルール」を通して授業を大切にする意識を高め、生徒が主体的に学べるよう、活動内容や授業形態を工夫する。
	A 2 生徒は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】全体アンケート「生徒は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している」 ⇒生徒肯定回答 80%	①○思いやりの基本となる、相手の話を目・耳・心で聞くよう、話の聞き方について指導する。 ②○相手に対してどのように伝わるかなど、相手の心情を考えて話すよう意識させる。 ③ 生徒会と協力し、学期に1度“思いやりのある人”について表彰することで、生徒の思いやりに対する意識を高める。 ④ 学校行事を通して周りの人への感謝の気持ちも含めて振り返らせる。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 92.2%（昨年度比較5.3%↑）で、目標を12.2ポイント上回った。 ・誰に対しても分け隔てなく接する生徒が多く見られた。 【次年度の方針】 ○相手に対する話し方や聞き方を指導することを継続し、授業や学校生活を通して言葉の伝わり方を考えさせる指導の充実を図る。
	A 3 生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】全体アンケート「生徒は、きまりやマナーを守って、生活している。」 ⇒生徒肯定回答 90%	①○学校行事や委員会活動、部活動を通して生徒と対話のできる関係と雰囲気づくりを推進し、マナーを守って生活することの大切さを指導する。 ②○体育館移動時に私語を慎みながら移動させたり、1F廊下の適切な歩行の仕方を徹底させたりする。 ③○チャイム2分前着席や指名・指示されたときの返事を徹底する。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 88.4%（昨年度比較4.1%↑）で、目標を1.6ポイント下回った。 ○学校のきまりや時間を意識して守る生徒が徐々に増えつつある。 【次年度の方針】 ○さまざまな教育活動を通して、きまりやマナーの大切さに気付かせる指導に努める。 ○道徳の授業などを活用し、時と場に応じた言動や相手への思いやりについて生徒に考えさせ、意識を啓発する。

目 指 す 生 徒 の 姿	A 4 生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】全体アンケート「生徒は、時と場に応じたあいさつをしている」 ⇒生徒肯定回答 90%	①○生徒会や教職員・PTA によるあいさつ運動を活発に行うとともに、部活動でもあいさつ指導の充実を図る。 ②○教職員が率先してあいさつをすることで、学校全体があいさつをする雰囲気高める。 ③○あいさつ強化週間をつくり、率先してあいさつをする意識を高め実践させる。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 96.6%（昨年度比較 1.3%↑）で、目標を 6.6 ポイント上回った。 ○常にあいさつが飛び交う様子が見られた。 【次年度の方針】 ○生徒会や教職員・PTA によるあいさつ運動を行い、互いに率先してあいさつができるよう意識を高める。
	A 5 生徒は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】全体アンケート「私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる」 ⇒生徒肯定回答 80%	① 各学級で、1 年間の自分の目標（マンドラート）を作成させ、定期的に見直しをさせることにより、目標に向かって取り組むことを意識させるとともに達成感を味わわせる。 ② 定期テストにおいて、テスト計画表を作成させる際に、数値目標など具体的な目標を設定させ、計画的に取り組ませる。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 84.5%（昨年よりも 2.8%↑）で、目標を 4.5 ポイント上回った。 ・テスト前に具体的な数値目標を設定し、計画的に課題に取り組む生徒が多く見られた。 【次年度の方針】 ・1 年間の目標を定期的に振り返り、出来たことを認めて達成感を味わわせる。
	A 6 生徒は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】全体アンケート「生徒は、健康や安全に気を付けて生活している」 ⇒生徒肯定回答 80%	① 保健だよりや健康委員会による「姿勢の日」の活動を通して、健康な生活について啓発をする。特に本地域学校園の健康課題であるう歯の受診率の向上に努める。 ②○新体力テストの結果を基に、不足している基礎体力作りに取り組む。体育の授業では計画的に補強運動を取り入れ運動量の増加を目指す。 ③ 自転車通学の生徒が多いので、登校指導や自転車点検、交通安全教室などの活動を通して、自転車の正しい乗り方、交通安全の意識を高める指導を徹底する。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 94.4%（昨年度比較 1.8%↑）で、目標を 14.4 ポイント上回った。 ・歯科検診の結果より、小中学校ともに口腔衛生がなされ、歯の状態は改善されている。 【次年度の方針】 ・新しい生活様式の徹底を図り、感染症拡散防止に努める。 ・感染症罹患者、あるいは濃厚接触者への偏見・差別等が起きないように、心の教育を実践していく。
	A 7 生徒は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。 【数値指標】全体アンケート「私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 ⇒生徒肯定回答 80%	① 羽黒山ボランティアや親子奉仕作業など、集団や地域のために働く機会を設定し、働くことの大切さや喜びを実感させる教育活動に取り組む。 ② キャリアパスポートを活用し、自己の活動を振り返らせることにより、新たな学習や生活への意欲につなげ、将来の生き方を考えさせる。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 84.5%（昨年よりも 2.8%↑）で、目標を 4.5 ポイント上回った。 ・羽黒山ボランティアの振り返りでは、地域のために働くことの喜びを実感している生徒が多く見られた。 【次年度の方針】 ・キャリアパスポートを活用し、保護者と連携を図りながら、目標実現のための取組をスモールステップで考えさせる。
	A 8 生徒は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】全体アンケート「生徒は、英語の授業や ALT との交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている。」 ⇒生徒肯定回答 80%	①○英語による授業を行う。また、教員（ALT を含む）との対話活動や、生徒がペアになって自分の考えや気持ちを英語で伝え合ったりする活動など、生徒が発話する場面を多く設ける。 ②○ティームティーチングの授業で、T1 と T2 が英語でのやりとりのモデルを多く見せることにより、生徒に自然とやりとりの仕方を身に付けさせる。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 85.3%（昨年よりも 0.7%↓）で、目標を 5.3 ポイント上回った。 ・感染症対策のためペアでの対話活動が減少したが、教師とのやりとりに意欲的に取り組む生徒が多く見られた。 【次年度の方針】 ○生徒が「話したい」という意欲を高めるよう、テーマ設定を工夫する。 ・感染症対策を徹底しながら、教師や生徒同士での対話活動やスピーチなど、生徒が発話する活動を多く取り入れる。
	A 9 生徒は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】全体アンケート「私は、宇都宮の良さをしている」 ⇒生徒肯定回答 80%	① 地域の良さを知るために、地域の人と一緒に becoming 行事に参加することにより「郷土愛」を育ませる。 ② 地域の行事には、積極的に参加するよう生徒に促すとともに、地域のボランティア活動に参加しやすいよう配慮する。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 88.4%（昨年度比較 5.4%↑）で、目標を 8.4 ポイント上回った。 ・生徒は地域行事によく参加するなどして郷土への愛着をもっている。 【次年度の方針】 ・地域行事へ生徒が参加しやすい環境を整えるとともに、宇都宮学や道徳科等での指導により、更に郷土愛を育む。

目 指 す 学 校 の 姿	A10 生徒は、ICT機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】全体アンケート「生徒は、PCや図書等を学習に活用している」 ⇒生徒肯定回答 80%	① 国語科の調べ学習において、積極的に図書室を利用する。また、他教科においても、授業で図書の活用を進める。 ② 総合的な学習の時間において、パソコンや実物投影機を利用して、調べ学習や発表に取り組みさせる。	A	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 71.1%（昨年よりも 6.4%↑）で、目標を 8.9ポイント下回った。 ・総合的な学習の時間では、パワーポイントを活用して発表する生徒が多く見られた。 【次年度の方針】 ・各教科等において、積極的に学校図書等を活用する。また、調べ学習や発表などに、個人のPCを使う機会を増やし、積極的にICT機器の活用にも努める。
	A11 生徒は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】全体アンケート「生徒は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している」 ⇒生徒肯定回答 80%	① 運動会への高齢者の招待、福祉委員会による祥豊苑訪問や 1 日早い年賀状作成などの活動を通して、高齢者に対する理解を深め、いたわりの気持ちを育む。 ② 教育活動全体を通して、愛情を注いでくれる自分の祖父母や、ボランティアで地域のために活動する高齢者に対して、感謝の心や共に生きていこうとする気持ちを培う。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 92.2%（昨年度比較 5.3%↑）で、目標を 12.2ポイント上回った。 ・1 日早い年賀状を高齢者への敬老の念をもって作成する生徒が見られた。 【次年度の方針】 ・学校行事や福祉委員会の活動を通して、高齢者に対する理解を深め、感謝や労いの心を育む。
	A12 生徒は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】全体アンケート「生徒は、環境問題や防災等の持続可能な社会について、関心をもっている」 ⇒生徒肯定回答 80%	① 生徒会と連携し、節電やリサイクルによる再利用について呼びかけ、回収活動を実施することで、生徒の関心を高める。 ② 避難訓練等を通して、火災や自然災害の対策を身に付けさせ、自ら考え行動する生きる力の育成を図る。 ③ 授業や学校行事を通して、「持続可能な社会」について理解を深めさせ、身近なものに関連させる。	A	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 68.7%（昨年度比較 0.5%↑）で、目標を 11.3ポイント下回った。 ・リサイクル活動に協力的な生徒が多く見られた。 【次年度の方針】 ・授業や学校行事を通して、「持続可能な社会」や「SDGs」について理解を深めさせ、身近に実施しているリサイクル活動や人権教育活動と関連させる。
	A13 教職員は、特別な支援を必要とする生徒の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】全体アンケート「教職員は、特別な支援を必要とする生徒の実態に応じて、適切な支援をしている」 ⇒教職員肯定回答 90%	① 生徒の様子を把握し、常に適切な対応ができるようにする。また、SCやMS等と連携を図り、個に応じた対応に心掛ける。 ② 生徒指導部会や教育相談部会等を定期的に行い、生徒に対する支援の共通理解を図る。	B	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は 100.0%（昨年度同様）で、目標を 10.0ポイント上回った。 ・教職員が連携し、生徒の実態に応じた適切な支援ができるよう共通理解が図られている。 【次年度の方針】 ・SCやMS等と連携を図り、支援の方向性を明確にしながら、適切な支援ができるよう、今後も組織的に対応する。
	A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】全体アンケート「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる」 ⇒生徒肯定回答 90%	① 休み時間の巡回指導や教育相談、嫌な思いアンケートを活用して、いじめを早期に発見する取り組みに努める。また、生徒の不適切な言動に対して細かな声掛けを行う。 ② いじめに対しては、いじめ対策委員会で組織的かつ迅速に対応する。 ③ 保護者会やHP、各種だより等で取組を周知する。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 97.0%（昨年度比較 2.1%↑）で、目標を 7.0ポイント上回った。 ・重大事案がなく、思いやりの心をもって学校生活を送る生徒が多く見られる。 【次年度の方針】 ・今後も、日々の指導や教育相談などのいじめを未然に防ぐ取り組みを継続し、早期発見・早期対応を図る。さらに、取組周知により意識を啓発する。
	A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】全体アンケート「先生方は、一人一人を大切に、生徒がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている」 ⇒生徒肯定回答 80%	① 教育相談部会において、不登校傾向の生徒について、SC、MSと連携した対応を検討し、全教職員が共通理解のもと支援に当たる。 ② Q-Uの結果や日記指導（スタンダードダイアリー）を利用し、学級集団としての状態や、生徒一人一人の意欲や満足感を把握し、学級経営に生かす。 ③ 自尊感情を高めるような声掛けを全教職員で実施する。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 95.3%（昨年度比較 14.3%↑）で、目標を 15.3ポイント上回った。 ・全教職員が共通理解のもと、生徒一人一人を大切にされた個別対応を行った。 【次年度の方針】 ・日記指導や教育相談、学年共通のエンカウンター実施より生徒理解につなげるとともに、今後も居心地の良い学級づくりに努める。

目 指 す 学 校 の 姿	A16 教職員は、外国人生徒の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】全体アンケート「外国人生徒に対する支援ができている」⇒教職員肯定回答 90%	① 英語科・ALTを中心とした授業を実践し、外国語の苦手意識を軽減させる努力に務める。 ② グローバル社会を意識し、生徒や保護者への適切な支援に心掛ける。	B	【達成状況】 ・教職員の肯定回答率は 100%であった。 ・教職員は、性別や国籍を問わず人権に配慮した対応に努めた。 【次年度の方針】 ・授業や日常生活で、ALTとの英語によるコミュニケーションを積極的に推奨する。
	A17 学校は、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。 【数値指標】全体アンケート「私は、今の学校が好きです」⇒生徒肯定回答 90%	① 学年・学校行事をととして、生徒が主体的に企画・運営を行い、感動ある行事につなげられるようにする。 ② 生徒の自主的活動を充実させられるよう生徒に考えさせる機会を数多く作り、生徒一人一人が達成感や自己肯定感を得られるような集団づくりを推進する。	A	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 87.9%（昨年度比較 0.6%↓）で、目標を 2.1 ポイント下回った。 ・コロナ禍により、生徒の活動を制限したことが一因と考えられる。 【次年度の方針】 ・生徒主体の教育活動や居心地の良い学級づくりにより、生徒の自己有用感及び集団所属感を養う。
	A18 教職員は、分かる授業や生徒にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】全体アンケート「先生方の授業は分りやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる」⇒生徒肯定回答 80%	① T T やかがやきルームの利用など少人数指導の工夫により基礎基本の定着を図り、本時のめあてを明示し振り返りを記入させることにより、「分かる授業・できる授業」を目指し、指導法の改善に努める。 ②〇「表現力を高め、自分の考えを伝え合う授業」をテーマとした「一人一授業」を実践し、個々の教員の授業力向上を図る。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 92.6%（昨年よりも 1.1%↑）で、目標を 12.6 ポイント上回った。 ・「一人一授業」や校内研修を通して、各教員が授業力向上に努めた。 【次年度の方針】 ・本時の学習のまとめや生徒に学習を振り返らせる活動を充実させる。 ・「一人一授業」を継続実践し、生徒が主体的に学べる授業を目指し、教員の指導法改善に努める。
	A19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】全体アンケート「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる」⇒教職員肯定回答 80%	① 新学習指導要領完全実施に向け、教職員が一丸となって、生徒達のために共通理解を図り計画的に教育活動を実践する。 ① 各種委員会を定期的に開催し、リーダーを中心にそれぞれの教育活動推進と次年度に向けた検証を行う。	B	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は 100%（昨年度同値）で、目標を 20 ポイント上回った。 ・生徒への指導をチームで対応するとともに、コロナ禍による教育活動の見直しを協働して取り組んだ。 【次年度の方針】 ・教育活動及び学校運営を、計画的に複数体制で推進し、教職員の同僚性を高める。
	A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】全体アンケート「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる」⇒教職員肯定回答 80%	① 学校経営方針に基づき教育活動を実践するとともに、教職員が担う業務の明確化・適正化を検証する。 ② 職員会議や各種委員会の見直しを基に、会議等の効率化・適正化を図り、教職員のゆとりの時間確保に努める。 ③ 宇都宮市部活動の指針に基づき、各部活の適正な計画立案に従い望ましい部活動の在り方を実践する。	B	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は 92.0%（昨年度比較 10.5%↑）で、目標を 12 ポイント上回った。 ・会議のペーパーレス化や定時退勤日の設定等により、業務効率化に対する教職員の意識が高まった。 【次年度の方針】 ・業務の精選及び教育課程の改善などにより、さらに業務効率化を図り、教職員が生徒に向き合う時間を確保する。
	A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】全体アンケート「学校は、小学生や中学生が交流する活動を行っている」⇒生徒肯定回答 80%	①〇地域学校園内小中学校間の連絡・調整等を密に行い、小中合同あいさつ運動や冒険活動教室、進学先中学校訪問等における活動の充実を図る。 ②〇図書室の図書紹介ポップでの小中交流を生徒に広く周知する。 ③〇小中一貫教育における「『ゆずっ子』の学びの 5 つの約束」を意識させて学習に取り組ませる。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 77.1%（昨年よりも 7.2%↓）で、目標を 2.0 ポイント下回った。 〇感染症対策のため、予定されていた多くの活動が中止になり、小中交流を実感する機会をほとんど設けることができなかった。 【次年度の方針】 〇地域学校園内小中学校で連携し、コロナ禍であっても、オンライン等で実施できるような小中交流の活動を取り入れる。

	A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】全体アンケート「私は、地域や企業の方々と一緒に活動することで学習が充実し、楽しい」 ⇒生徒肯定回答 80%	① 家庭や上河内中学校地域協議会などと連携し、地域学校園の諸活動と関連させながら、地域人材を活用した諸活動を推進する。 ② 情報モラル教室や交通安全教室において企業と連携・協力し、よりよい教育活動の充実を図る。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 80.5%（昨年度比較 5.5%↓）で、目標を 0.5ポイント上回った。 ○特色ある教育活動をほぼすべて実施したが、コロナ禍により地域人材の活用等を控えることが多かった。 【次年度の方針】 ・これまでの特色ある教育活動の充実とともに、新学習指導要領実施に伴い、社会に関わった教育課程の運用を図る。
	A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい生徒の育成に取り組んでいる。 【数値指標】全体アンケート「私は、地域や企業の方々と一緒に活動することで学習が充実し、楽しい」 ⇒生徒肯定回答 80%	① 〇望ましい礼儀やマナーを育成するため、あいさつ運動や場に応じた適切な言葉づかいの標語募集等の取組や日常的な指導を、地域学校園内小・中学校及び地域協議会が連携・協力して行う。 ② 〇郷土を愛する心を育てるため、梵天祭等への参加を促すとともに、羽黒山の清掃活動「羽黒山ボランティア」を実施する。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 80.5%（昨年度比較 5.5%↓）で、目標を 0.5ポイント上回った。 ○地域協議会等と連携した取組や地域行事を支援する教育活動を実施することができたが、コロナ禍により地域人材の活用を控えることが多かった。 【次年度の方針】 ○上河内地域の特色を生かした教育活動を、今後とも家庭や地域等と連携し推進していく。
	A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】全体アンケート「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている」 ⇒保護者肯定的回答 80%	① 安全指導係を中心に全教職員で、校内安全点検を定期的実施し、校内の安全確保に努める。 ② 管理職、事務長、学校業務委託員と連携を図り、校内の小破修繕に努める。	B 【達成状況】 ・保護者の肯定的回答は 96.1%（昨年度比較 7.0%↑）で、目標を 16.1ポイント上回った。 ・コロナ対策及び施設修繕を、迅速かつ丁寧に行い、重大事故防止や感染症の流行を予防した。 【次年度の方針】 ・定期点検結果の情報共有及び管理職への報告を迅速に行うなどして、生徒及び教職員、利用者の安全を重視した教育環境を整える。
	A25 学校は、学習に必要な ICT 機器や図書等を整えている。 【数値指標】全体アンケート「生徒は、PC や図書等を学習に活用している」 ⇒生徒肯定回答 80%	① 情報教育担当や司書が学級担任と連携し、PC 及びタブレット、学校図書館図書、市立図書館の巡回図書等の活用を図る。 ② 読み聞かせの実施や図書だよりによる啓発などにより学校図書館を核とした読書活動の充実を図る。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 71.1%（昨年よりも 6.4%↑）で、目標を 8.9ポイント下回った。 ・感染症対策のため、図書室の利用や読み聞かせの回数が減少したが、各教科等の調べ学習や発表においては、PC 及びタブレットを活用した。 【次年度の方針】 ・各教科担任と司書が連携を図り、図書等が活用できる単位では、南図書館等の学校支援事業を利用して各教科指導に役立てる。
本校の特色・課題等	B1 生徒は、正しい言葉づかいをしている。 【数値指標】全体アンケート「生徒は、大人に対して適切な言葉づかいをしている」 ⇒生徒肯定回答 80%	① 〇地域学校園協議会で課題として取り上げ、小中合同で場に応じた適切な言葉づかいの継続指導を協力して行い、成果を見極める。 ② 〇地域学校園協議会において、丁寧な言葉づかい運動を推進し、標語等を募集し成果があったかどうか検証する。 ③ 〇教職員が手本となるような言葉づかいをするよう心掛ける。	A 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 86.6%（昨年度比較 0.6%↓）で、目標を 6.6ポイント上回った。 ○生徒は正しい言葉づかいを意識し、地域住民に対する言葉づかいに丁寧な様子が見られる。しかし、授業中の発表等において、一部不十分な言葉づかいがある。 【次年度の方針】 ・小仲一貫教育「ゆずっ子学びの5つの約束」の実践と、地域学校園協議会と連携した適切な言葉づかいの指導を継続する。
	B2 教職員は、組織の一員として熱心に教育に当たっている。 【数値指標】全体アンケート「先生はよいところを認め直すべきところはしっかりと指導している」 ⇒生徒肯定回答 80%	① 組織で共通理解し、生徒の指導に当たる。 ② 校内公開授業（一人一授業）や各種研修会で学んだことを生かし、生徒が興味・関心をもって授業に取り組めるよう工夫・改善する。 ③ 生徒に関する情報交換を密にし、協力体制の中で、より個に応じた支援を行う。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 97.0%（昨年度比較 4.7%↑）で、目標を 17.0ポイント上回った。 ・教職員間で情報を共有し、共通理解を図って個に応じた支援・指導・称賛などに努めた。 【次年度の方針】 ・授業では生徒の考えを深めさせるとともに、学校行事等では自己肯定感を高める指導に努める。 ・生徒に関する情報交換を密にし、個に応じた支援を組織的に行う。

B3 生徒は、地域でのボランティア活動や行事に参加している 【数値指標】全体アンケート「生徒は、地域でのボランティア活動や行事に参加している」 ⇒生徒肯定的回答 80%	①〇梵天祭、上河内地区体育祭、上河内福祉まつり、上河内文化交流会など、地域の行事があるときは、部活動を休みにして、生徒が積極的に参加できるようにする。 ②〇梵天祭後に、羽黒山の清掃活動「羽黒山ボランティア」を実施し、郷土を愛する心を育てる。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 79.7%（昨年よりも 7.9%↑）で、目標を 0.3 ポイント下回った。 ・感染症対策のため、地域の行事はすべて中止となったが、羽黒山ボランティアではどの生徒も清掃活動に意欲的に取り組んだ。 【次年度の方針】 ・地域行事への参加促進や地域貢献活動により、地域と共に生きる生徒の育成に努める。
B4 自分の考えを豊かに表現する力と豊かな心（関心・感動・感謝・思いやり等）の育成が図られている。 【数値指標】全体アンケート「生徒は、文化祭や総合的な学習の時間などで、充実した発表ができた。」 ⇒保護者肯定的回答 90%	① 生徒会活動等を通して、生徒が前に出て発表する機会を意図的に作る。 ② 「総合的な学習の時間発表会」の準備では発表の仕方を学ばせ、発表の質を高める。 ③ 各行事における振り返りの内容を工夫して、自分の感動体験をより実感させる。	B 【達成状況】 ・保護者の肯定的回答は 87.5%（昨年度比較 7.8%↓）で、目標を 2.5 ポイント下回った。 ・コロナ禍により、活動の公開を制限したことが一因と考えられる。学校行事の縮小やテレビ放送を活用した委員会活動などにより、多くの生徒が達成感を得ていた。 【次年度の方針】 ・「総合的な学習」の発表会の方法を工夫するなどして、今後とも生徒の発表する力を伸ばしていく。
B5 豊かな表現力を支える言語能力を向上させるため、読書の習慣化を図る。 【数値指標】全体アンケート「私は、読書が好きです」 ⇒生徒肯定的回答 75%	① 「朝の読書」の時間が充実するように、廊下の掲示物を作成し、生徒の興味関心に応じた図書を選定、探しやすく見付けやすい図書室の配架、定期的な学級文庫の入替等を行い、図書を借りやすい環境作りをする。 ②〇生徒会図書委員会活動の工夫による読書啓発、図書ボランティアをより活用した読み聞かせやブックトークを計画的に行い、読書に対する興味関心を高める。	A 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 69.8%（昨年度比較 2.7%↓）で、目標を 5.2 ポイント下回った。 ・生徒の興味関心や実態に合わせた本を整え、学級文庫を充実させた。 【次年度の方針】 ・図書室利用計画を確実に実施するとともに、コロナ禍により中止した読み聞かせやブックトークを、来年度は感染症対策をして実施するなどして、生徒の読書に対する興味・関心を高める。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に〇印または該当箇所に下線を付ける。

1 全体アンケート結果の傾向

◇8割以上のアンケート質問において、昨年度と比べ肯定的回答が向上しているとともに市平均に比べても高い状況から、定量的には本校の取組は成果が上がっているといえる。また、5ポイント以上向上した質問が25あり、A4「時と場に応じたあいさつ」は地域学校園協議会あいさつ運動や家庭での指導、A9「宇都宮の良さ」は親子での地域行事への参加など、家庭や地域と連携した取組に関連する質問の結果が大きく向上している。

◆小学校や地域等との連携、学校行事に関連する質問については、生徒及び保護者の肯定的回答割合が低下しているものがある。これは、感染症対策のために地域人材の活用自粛や学校行事半日開催など、教育活動を大きく制限したため、生徒の主体的な活動及び保護者等への公開の機会が減少したことが一因であると考えられる。

2 評価項目の主な成果と課題

【主な成果】

(1) 学校運営全般

・A19「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」の評価項目において、教職員の肯定的回答は昨年同値の 100%であり、目標より 20 ポイント高いなど、関連項目のほとんどで目標を上回った。

・学習や生活の指導をチームで対応するとともに、コロナ禍による教育活動の見直しを教職員一体となって行うなど、学校経営方針に基づき協働できる学校づくりが進められている。その結果、全教職員が協力し、教育活動を縮小または期日を変更するなどして、すべての学校行事を実施することができた。

今後とも、業務の効率化を図りつつ教育活動及び学校運営を計画的に複数体制で推進し、教職員の同僚性を高めるとともに、家庭及び地域との連携を大切にしながら「チーム上河内」の実現を図る。

(2) 学習指導

・A18「教職員は、分かりやすい授業や一人一人へのきめ細かな指導をしている」の評価項目において、生徒の肯定的回答は昨年度に比べ 1.1%高い 92.6%であり、目標より 12.6 ポイント高いなど、多くの関連項目で目標を上回った。

・教員が本時のめあてを明示し、生徒に学習の見通しをもたせるとともに、従業の後半では生徒に学習のポイントを振り返らせる授業展開や、TTやかがやきルームの利用などの少人数指導の工夫により、「分かる授業・できる授業」を目指し指導方法及び指導体制の充実に努めた。さらに、教員一人一人の授業力の向上を図るため、全教員が授業を公開し協議する「一人一授業」の取組や校内研修を計画的に実施することができた。

今後とも、生徒が理解を深め、基礎・基本を定着できるように、本時の学習のまとめや生徒に学習を振り返らせる活動をさらに充実させるとともに、新学習指導要領が示す「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、「一人一授業」の実践を継続する。

(3) 生徒指導

・A2「生徒は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している」の評価項目において、生徒の肯定的回答は、昨年度に比べ 5.3%ポイント高い 92.2%であり、目標より 12.2 ポイント高いなど、関連項目のほとんどで目標を上回った。
・日々の学校生活の中で、相手の話の聞き方や、相手に対してどのように伝わるかなど、相手の心情を考えて話すよう意識させる指導を教職員で共通理解のもと指導することができた。その結果、思いやりのある言動や分け隔てなく接する生徒が多く見られている。

今後とも、教職員の共通理解のもと、相手に対する話し方や聞き方、接し方の指導を継続し、思いやりの心をもった生徒を育成する。

(4) 健康・体力等

・A6「生徒は、健康や安全に気を付けて生活している。」の評価項目において、生徒の肯定的回答は昨年度に比べ 1.8%高い 94.4%であり、目標を 14.4 ポイント高いなど、関連項目のほとんどで目標を上回った。
・歯科検診の結果から、小・中学校とともに口腔衛生がなされ、歯の状態が改善されている。さらに、コロナ対策及び食物アレルギー対応、施設修繕を、迅速かつ丁寧に行い、重大事故や感染症の流行を予防することができた。

今後とも、新しい生活様式の徹底を図り、感染症拡散防止に努める。

【主な課題】

(1) 学校運営全般

・B1「生徒は、正しい言葉づかいをしている。」の評価項目において、生徒の肯定的回答は昨年よりも 0.6%減少の 86.6%であり、目標を 6.6 ポイント上回った。

・生徒は正しい言葉づかいを意識し、地域住民に対する言葉づかいに丁寧さが見られる。しかし、友達同士の会話や授業中の発表において、一部不適切な言葉づかいがある。

今後は、家庭及び地域、各小学校と連携した「丁寧な言葉づかい運動」の推進による意識啓発を継続するとともに、生徒へTPOに応じた言葉づかいを身に付けさせるために、上河内地域学校園小・中学校共通の「ゆずっ子学びの5つの約束」を踏まえ、授業中に相手を尊重し目的に沿った話し合いができるよう学習指導及び生徒指導を相互に関連させながら指導していく。

(2) 学習指導

・B5「私は、読書が好きです。」の評価項目において、生徒の肯定的回答は昨年よりも 2.7%減少の 69.8%であり、目標を 5.2 ポイント下回った。

・生徒の興味関心や実態に合わせた本を揃え、学級文庫を整備するなどして、朝の読書や休み時間の読書を充実させる教育環境を整えているが、自ら読書に親しむ生徒の姿は少ない。

今後は、図書室利用計画を確実に実施するとともに、ボランティア等による読み聞かせやブックトークの継続的な実施や朝の読書の改善、各教科の授業において積極的に学校図書の活用を図るなど、生徒の読書に対する興味・関心や読む力を高めていく。

(3) 生徒指導

・A12「生徒は、環境問題や防災等の持続可能な社会について、関心をもっている。」の評価項目において、生徒の肯定的回答は目標を 11.3 ポイント下る 68.7%であり、教職員の肯定的回答は 68.0%と低い結果となった。

・委員会活動主催のリサイクル活動に積極的に参加するとともに避難訓練等を通して、火災や自然災害の対策の大切さを身に付けている生徒が多く見られる。しかし、低い結果となった要因としては、普段から実施しているリサイクル活動や防災教育が「持続可能な社会」につながる活動であることを認識していないことが考えられる。

今後は、多くの授業を通して「持続可能な社会」についての知識を深めさせる取組を行い、その上で環境問題を考えたり、リサイクル活動や防災教育に参加させたりして、よりよい社会の形成に関心をもたせていく。

(4) 学校適応等

・A17「私は、今の学校が好きです。」の評価項目において、生徒の肯定的回答は 87.9%であり、目標を 2.1 ポイント下回った。

・多くの生徒は学校生活を楽しみ、充実させている様子が見られるが、コロナ禍により、生徒の活動を制限したことが目標を下回った一因と考えられる。

今後は、今年度大きく見直した学校行事等において、さらに生徒が主体となり互いを認め合い、協力する活動を展開するとともに、生徒が居心地の良い学級づくりに取り組んでいく。

7 学校関係者評価

- ・多くの項目において、肯定的回答割合が昨年度及び市平均を上回るなど評価が向上していることは、学校をはじめとした関係者の努力の結果である。引き続き高い理念のもと、自ら学び、心身ともに健康な生徒の育成に取り組むことを期待する。
- ・教職員や学校に関する項目の肯定的回答割合が高く、志を一つにして教職員がチームとなって業務に取り組んでいる成果である。また、保護者が学校の目標をよく理解しているといえる。
- ・いじめ防止については、生徒の肯定的回答が高いなど、学校の取組に成果が出ていることを示している。また、SNS でのトラブルなどについても、生徒にその怖さを気付かせていきたい。
- ・「ゆずっ子学びの5つの約束」については、上河内地区小・中学校共通の取組であることを保護者や地域住民にも広く知らせるなど、更に学校及び地域学校園の取組を充実させ、地域にも知らせていくとよい。
- ・ICTや図書の活用については、小・中学校が連携して活用方法を工夫していく必要があるとともに、家庭でも学校と連携して、読書好きな生徒が増えるように取り組んでいくとよい。
- ・コロナ禍によるマスク着用の日常において、相手の気持ちの察し方等のコミュニケーションが重要であることから、学校と家庭・地域が連携して言葉遣い等の人間関係を円滑にさせる指導を継続・充実していくことが大切である。
- ・コロナ禍などの予測困難な社会状況において、思いやりなどの学校経営方針に掲げる「豊かな心を育む」ことが重要であることから、道徳科を中心とした教育の充実に期待する。

8 令和2年度のまとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

(1) 学校運営全般

- ・来年度も継続して、コロナ禍における生徒の育成及び学校教育の充実に努めていくことが最優先となる。また、中学校新学習指導要領の実施やGIGAスクール構想の実施などの新たな学校教育を、教職員が一枚岩となって推進していく。
- 本校及び地域学校園の取組を保護者及び地域へ積極的に情報発信し、協働した取組を推進するとともに、上河内地域学校園内4校の連携を更に深め、地域と共にある学校づくりに努めていく。
- ・業務の効率化を図りつつ教育活動及び学校運営を計画的に複数体制で推進し、教職員の同僚性を高めるとともに、家庭及び地域との連携を大切にしながら「チーム上河内」の実現を図る。

(2) 学習指導

- ・生徒が理解を深め、基礎・基本を定着できるように、本時の学習のまとめや生徒に学習を振り返らせる活動をさらに充実させるとともに、新学習指導要領が示す「主体的・対話的で深い学び」を視点とした授業改善に向け、「一人一授業」の実践を継続する。
- ・ボランティア等による読み聞かせやブックトークの継続的な実施や朝の読書の確実な実施、各教科の授業において積極的に学校図書の活用を図るなど、生徒の読書に対する興味・関心や読む力を高めていく。さらに、生徒が一人一台貸与されるコンピュータタブレットを活用した授業を各教科で展開するとともに、ネットモラル等の指導を継続していく。

(3) 生徒指導

- 教職員の共通理解のもと、思いやりや規範意識などの「豊かな心」を育てていく。そのため、家庭及び地域、各小学校と連携した「丁寧な言葉づかい運動」の推進による意識啓発や特色ある体験活動を発展させる。さらに、上河内地域学校園小・中学校共通の「ゆずっ子学びの5つの約束」を踏まえ、授業においても相手を尊重し目的に沿った話し合いができるように、学習指導及び生徒指導を相互に関連させながら指導していく。
- ・「持続可能な社会」について知識を深めさせる授業を行い、その上で生徒が環境問題を考え、リサイクル活動や防災教育に参加することを通して、よりよい社会の形成に関心をもたせていく。

(4) 健康・体力等

- ・コロナ禍における新しい生活様式の徹底を継続し、感染症拡散防止及び重大事故の未然防止に努める。
- ・今年度大きく見直した学校行事等において、更に生徒が主体となり互いを認め合い、協力する活動を展開するとともに、生徒が居心地の良い学級づくりに取り組むなどして、生徒の学校生活への適応を図り、不登校者数減少に努める。